

令和 5 度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 2 回 こどもサービス連絡会	参加者数	28 人	会場	伊那市福祉まちづくりセンター ふれあい一な 3階 第1・2研修室
	日時	令和 5 年 11 月 9 日 (木) 15:00 ~ 17:00				
主 テ ー マ	(1)こども・若者部会課題アンケートの結果報告 ①外国籍の子どもの対応について ②保護者支援について (2)意見交換					
	(1)こども・若者部会課題アンケートの結果報告 ①外国籍の子どもの対応について ・スマホの翻訳アプリで対応 ・文書をローマ字打ちに変換 ・市の外国人通訳を利用(支援会議に通訳を利用した際は円滑で良好だった。) <課題> ・通訳が入らないと病気のこと・障がいのこと・制度のことなど微妙なニュアンスが伝わりにくい。 ・通訳を継続的に利用する場合の利用負担が現実発生し、今後の対応に困っている。 →長野県多文化共生相談センターの情報を提供 ②保護者支援について 放課後等デイサービスガイドラインに記述されている「保護者との連携」について再確認をした。 (2)意見交換(実際に行われている保護者支援について) ①ペアレントトレーニング ・各事業所での取り組み内容を共有 <課題> ・母子通園となると家庭の事情で療育が行えない子どもがいる。 ・利用者の増加により課題が上がっても対応しきれないことがある。 ②家族支援について ・送迎などの対面時に可能な限り傾聴し、必要に応じて電話連絡も行う。 ・保護者面談・保護者会・学習会・個別相談・きょうだい支援(託児)の実施。 ・必要に応じてこども相談室、療育Coに依頼し、支援者同士が繋がる関係づくりを意識している。 <課題> ・家族間で意見が違うこともあるため話を聞くことぐらいしかできないのが現状。 ・母の相談に夜中まで対応することもあり、相談窓口がもっと分かりやすければと感じる。 ・要対協が外れた後に伴走していると、また繰り返されているケースもあり注意が必要。 ・親(家族)支援がどこまでの範囲か、何をもちて家族支援というのかが分からない。 ・事業所対応だけでは限界があるため支援加算の見直しを検討して欲しい。 →予算の関係で早急な対応は難しい。行政との良好な関係づくりと相談支援専門員の力が必要である。					
まとめ	外国籍の方や保護者に対する相談支援の悩みや課題を共有すると共に、事業所同士の横のつながりを持つ機会となった。					
次回	来年度					